



石坂 聖子 さん
6年(新屋敷区)

私たちの仙崎小学校では、金子みすゞさんの優しさを学ぼうと、昨年よりみすゞタイムが始まりました。「今月のみすゞさんのうた」を読んだり、みすゞさんの童謡の中にある優しさをみんなで見つけたり話し合ったりしています。

昨年は、まずふるさと仙崎のことを知ろうと、仙崎八景などの童謡を学習しました。そしてそれを外国の人にも伝えていこうと、クイントン先生に来ていただいたいて、英語で「私と小鳥と



鈴と」を読んだりしました。今年には昨年学んだことをもとに、みすゞ学習に取り組んでいます。そして学んだ優しさを地域への奉仕活動やアルミ缶の収集へと広がっています。

私たちはみすゞさんを誇りにして、これから本当の優しさを身につけていきたいと思っています。



「毎日の仕事は店番。朝4時30分には店を開けます。釣りに行かれる方が寄られる」と言う。「この時間ばあちゃんの店しか開いていない」と釣り客に当てにされているようである。酒類が販売の中心で「安い店がたくさんできたからあまり売れせん。新しい道が開通したら通る車も少なくなるからまだ売れんようになるでしょう」と話す。「夜8時にはテレビドラマが始まるから店を閉めます。レシートでその日の売り上げを帳面に書き出し、お金と合わせて息子に渡したら一日の仕事は終わりです。それからテレビを見ます。時代劇が好きで、水戸黄門を楽しみにしています。また、大河ドラマ毛利元就も欠かさず見えています」と嬉しそうに話す。「朝のドラマは見

ふるさとながと ④1

こんにちば



荒川 和加恵 さん
(東京都府中市)

今の自分と離れて思う長門のよさ

略歴

昭和51年正明市4区で生まれる。
現在、チョーギン(株)パブ事業所、ショップ企画課に勤務。

私は小さい頃から物を作るのが好きで、中学の頃に絵に興味を持つようになり、高校に入った頃から将来服飾関係の仕事につきたいと思い、卒業後2年間、文化服装学院で学びました。現在は今年就職した子供服を専門に製造、販売するpapというブランドを中心とした会社の中で販売企画を担当し、パンフレットのデザインを考えたというような仕事をしていきます。今後はもっとたくさんの方とを学びながら、子供達はもちろんのこと、その家族みんなが喜んでくれるようなブランドになるように頑張りたいです。

長門には年2回程度しか帰ることができませんが、帰るたびに田舎の海の美しさには、ほっとさせられるものがあります。長門にいた頃は常に身近に



文化服装学院卒業式に友達と(前列右から2番目)

あった海も山も、今は身近になることが時に寂しく思えたりと、離れてみて田舎でのよさがわかったような気がします。

長門にはいつまでもその美しさを持ち続けて、私の良きふるさとであってほしいと願っています。